備　前　市　施　策　評　価　シ　ー　ト

施策名（小項目）	道路環境の整備	コード	作成者	役職	まち整備課長
		05-08-33		氏名	淵本安志
				電話	６４－１８３３
			このシート作成に要した時間		2.5　時間

この施策のアピールポイント	市民生活の利便向上や地域経済の活性化、通学路や災害等緊急時の避難路・輸送路として安全安心の確保等に寄与している。
この施策の平成26年度の施政方針	国・県の事業については、引き続き事業が円滑に進捗するよう調整に努めるとともに、市道事業についても計画的に整備を進めて行きます。また、安全安心のため施設の適正な維持管理に努めますが、特に道路法の改正に伴って実施が義務付けられた橋梁の点検については計画的かつ着実に進めて行きます。

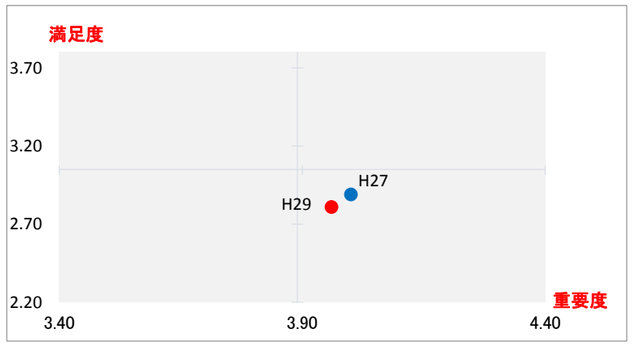
＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	生活環境政策「快適・活力」
	基本計画（中項目）	快適な生活が送れるまち
② 対象と目的（誰のために、何のために）	市民生活の利便向上、事業者の経済活動の円滑化、通学路や災害時における安全安心の確保	
③ 現況と課題（総合計画から現在の問題点を抽出）	生活道路である市道は未だ幅員が狭小であったり老朽化が進んでいる箇所があり、引き続き整備を進めて行くとともに、多くの市道・橋梁が耐用年数を迎えつつあることから、長寿命化計画により計画的な維持管理を行っていく必要がある。 国道2号等幹線道路では、依然、事故・渋滞が多発していることから、その解消のため国・県へ要望を続けていく。	
④ 施策展開（総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出）	▪ 国・県道の整備促進 ▪ 計画的な市道整備と長寿命化計画 ▪ 通学路の安全確保 ▪ 架橋事業の推進（完了）と島内道路の整備 ▪ 市民との協働による維持管理 ▪ 災害等緊急時における関係機関との連携強化	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度		H27	H29
重要度（%）		4.00	3.96
満足度（%）		2.89	2.81

《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等（調査対象でない施策は、市民の反応等）	道路整備は市民の生活に直結する施策でもあり非常に関心が高く要望も多い事業である。引続き満足度の向上のため整備を進めていく必要がある。

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

	施策に対する成果指標名		単位	過年度実績 H26	過年度実績 H27	評価年度 H28	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
成果指標	市道舗装率	目標	%	85.0	85.0	85.0	舗装済延長/市道総延長	H28	85.0
		実績	%	84.1	84.1	84.2	（舗装済延長　399,825m　/　市道総延長　475,021m）	H29	86.0
		達成率	%	98.9	98.9	99.1		H34	90.0
		ベンチマーク		－	－	－	－	―	―
参考指標①	市道整備率	目標	%	24.0	24.0	25.0	幅員4m以上の市道延長/市道実延長	H28	25.0
		実績	%	20.3	20.4	20.5	（改良済延長　96,562m　/　市道総延長	H29	26.0
		達成率	%	84.6	85.0	82.0	473,217m）	H34	30.0
		ベンチマーク		－	－	－	－	―	―
参考指標②	ボランティア参加団体数	目標	団体	50	50	60	参加団体数	H28	60
		実績	団体	40	42	42		H29	70
		達成率	%	80	84	70		H34	80
		ベンチマーク		－	－	－	－	―	―
参考指標③		目標							
		実績							
		達成率	%						
		ベンチマーク						―	―

⑦ 目標達成に必要な新規事業（裏面 施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
国・県	それぞれの管理区間との連携	連携を密にすることにより、未整備区間の解消と面的な整備を促進する。

⑧ 施策の評価

項目		評価	5：非常に高い　4：高い　3：どちらともいえない　2：低い　1：非常に低い 判断理由（なぜ、そのランクと評価したのか）
1	＜成果指標の妥当性＞ 施策の目的・成果を表現しているか？	4	舗装率は道路整備状況を顕すものであり指標として妥当。 これからの施設管理においては市民との協働による維持管理活動が重要となってくるため本指標は妥当。
2	＜事業構成の適当性＞ 手段は最適か？	4	概ね妥当である。期成会負担金等については他市の状況も見ながら減額も検討したい。
3	＜施策の有効性＞ 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3	財政状況は引続き厳しいが年次的に整備を進めており、今後も着実に道路整備を進めていく。 ボランティア参加団体数は年々増えてきており、今後更なる団体増を目指す。
進行年度(H29年度)の取組内容（課題解決状況）		国道2号については香登･西鶴山地区においてＨ24年度から国交省により安全対策のための整備が着手されており、地権者との協議を進めている。28年度からは一部工事着手している。また県道においても市内数箇所の要望箇所について事業実施の予定。市道・生活道路も引き続き改良･修繕等整備を進めている。	
翌年度(H30年度)の取組目標		道路改良、修繕については年度予算を確実に執行する。国･県事業については事業が円滑に進捗するよう調整に努めるとともに、引き続き事業の促進に向け強力に要望活動を続けていく。	
二次評価者コメント（役職：まちづくり部長　氏名：中島　和久）		幹線道路については、期成会を中心とした国･県道の整備促進の要望活動を進めて下さい。生活道路については、地区住民の意向を踏まえ効率的な改良や維持管理に努めてください。また、企業団地への進入路として香登4号線の改良を速やかに実施して下さい。	基本施策への貢献度：4 やや高い

施策		事務事業名	直接事業費 H26	直接事業費 H27	直接事業費 H28	構成比	前年比	人件費H26	人件費H27	人件費H28	人工数H26	人工数 H27	人工数 H28
33	1	国道等整備促進事業	427	505	524	0%	104%	1,382	1,784	1,374	0.3	0.17	0.14
	2	県道改良事業	34,682	32,536	11,560	3%	36%	234	325	236	0.03	0.03	0.03
	3	道路等新設改良事業	198,580	175,638	305,643	70%	174%	21,284	24,855	28,671	3.24	3.37	3.95
	4	道路維持管理事業	53,360	71,989	84,536	19%	117%	8,677	6,598	6,525	1.17	0.85	0.88
	5	市道等管理事業	4,359	8,506	9,808	2%	115%	9,725	9,479	8,755	1.22	1.1	1.23
	6	協働による市道等管理事業	1,891	1,920	2,066	0%	108%	188	174	106	0.02	0.03	0.01
		上水道新設負担金（シート無）			7,953	2%	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-
		日生管理課	-	5,382	6,089	1%	113%	1,559	5,235	1,339	0.16	0.51	0.16
		吉永管理課	7,520	9,250	7,675	2%	83%	3,753	4,968	2,232	0.45	0.62	0.29
	999	道路環境の整備	300,819	305,726	435,854	1.8%	143%	46,802	53,418	49,238	6.59	6.68	6.69

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成8年度～	根拠法令・例規等		
総合計画	大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	問合先 担当課（室） まち整備課
	中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	職・氏名 管理係長　山本　あゆみ
	小項目	施　策	33	道路環境の整備	電　話 0869-64-1833
事務事業名			01	国道等整備促進事業	このシート作成に要した時間 0.5 時間

Plan

事業の目的

対　象（誰・何に対して）	国土交通省、岡山県、地域住民
目　的（何のために）	国道等を整備することにより、交通の利便性、安全性を高め、地域の活性化を図ることを目的とする。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	国道等の整備により、地域の安全、活性化を図りたい。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
国道２号（岡山県東部）整備促進期成会負担金	国道整備のための負担金	◎
国道２号（岡山県東部）整備促進期成会事務	国道整備のための要望事務	◎
国道２号（岡山県東部）整備促進要望事務	国道整備のための要望事務	◎
国道３７４号整備促進期成会会費	国道整備のための負担金	○
国道３７４号整備促進要望事務	国道整備のための要望事務	○
国道２５０号整備要望事務	国道整備のための要望事務	○
道路整備促進同盟会・全国協議会要望事務	国道整備のための要望事務	▲
（社）日本道路協会負担金	国道整備のための要望事務	▲
中国国道協会会費	国道整備のための要望事務	▲
中国横断自動車道建設促進岡山県期成会会費	国道整備のための要望事務	
県市町村道整備促進期成同盟会負担金	県道整備のため負担金	○
中部高原地域整備促進期成会負担金	県道整備のため負担金	▲
研修会等参加負担金	県道整備のため負担金	○
県土木協会会費	県道整備のため負担金	○
中国地区用地対策連絡協議会	県道整備のため負担金	▲

決算額

事業費等		単位	平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度実績	
事業費	直接事業費	千円	427		505		524	
	必要人員		0.30人	1,382	0.17人	1,784	0.14人	1,374
	人件費							
	事業費計		1,809		2,289		1,898	
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源		1,809		2,289		1,898	
受益者負担比率		%	－		－		－	

結果指標

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
国道２号（岡山県東部）整備促進期成会		説明	要望実施箇所数		
結果指標量			3	3	3
対前年比		%	－	100.0%	100.0%
活動コスト		円	1,809,000	2,289,000	1,898,000
単位当たりコスト			603,000	763,000	632,667

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
要望実施箇所数	目標値（A）	7	7	7	8
	実績値（B）	3	3	3	到達目標値
	達成率（B/A）	42.86%	42.86%	42.86%	3

成果指標設定の考え方・式や説明

要望実施箇所数（B）/要望箇所数（A）

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ■ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である

必要性

- ■ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：B

効率性の評価

コスト

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある

手段

- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：C

有効性の評価

目的達成度

- □ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ■ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ■ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：C

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：本年度においても整備実現のため引き続き実施していく。

総合評価

国道2号の慢性的な渋滞の解消等に伴う道路改良の早急な整備は期待できないが、局所的な整備要望により成果に結びついた。

総合評価：C

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：次年度も引き続き要望していく必要がある。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度		昭和46年度～	根拠法令・例規等		
総合計画	大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	問合先 担当課（室） まち整備課
	中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	職・氏名 管理係長　山本　あゆみ
	小項目	施　策	33	道路環境の整備	電　話 0869-64-1833
事務事業名			02	県道改良事業	このシート作成に要した時間 0.5 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	県道利用者
目的（何のために）	県道の効率的・効果的な整備により、道路交通の円滑化や圏内の一体的発展及び安全で快適な通行の確保を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	県に要望し、県道の改良工事を実現させる。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
道路改良県工事負担金	県が実施した工事にかかる市町村負担金	○
県道改良要望事業	県道整備の要望	○

事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	34,682	32,536	11,560
	必要人員		0.03人	0.03人	0.03人
	人件費		234	325	236
	事業費計		34,916	32,861	11,796
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		34,916	32,861	11,796
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
結果指標 県工事実施件数		説明	県道路（改築系）要望　実施件数		
	結果指標量		6	1	4
	対前年比	%	－	16.7%	400.0%
	活動コスト	円	34,916,000	32,861,000	11,796,000
	単位当たりコスト		5,819,333	32,861,000	2,949,000

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
県道路関係（改築・交通安全・維持補修）要望実施箇所数	目標値（A）	29	26	28	28
	実績値（B）	5	2	4	到達目標値
	達成率（B/A）	17.24%	7.69%	14.29%	3

成果指標設定の考え方・式や説明

要望実施箇所数（B）/要望箇所数（A）

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ■ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ■ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い・B やや高い・C 普通・D やや低い・E 低い）：**B**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い・B やや高い・C 普通・D やや低い・E 低い）：**D**

有効性の評価

目的達成度

- □ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ■ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い・B やや高い・C 普通・D やや低い・E 低い）：**C**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：県の財政状況を鑑みると県道改良工事の実施に至るまでは困難が予想されるが、引き続き要望していく。

総合評価

県道の改良工事要望箇所については、全面的な要望から局所的な要望へと見直すなど、緊急性等配慮し改善をしながら取り組んでいる。

総合評価（A 高い・B やや高い・C 普通・D やや低い・E 低い）：**C**

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：次年度も引き続き要望していく必要がある。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成17年度～			根拠法令・例規等	道路法
総合計画 大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	問合先 担当課（室）	まち整備課
中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	職・氏名	係長　岡村　悟
小項目	施策	33	道路環境の整備	電話	0869-64-1835
事務事業名		03	道路等新設改良事業	このシート作成に要した時間	6.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	道路を通過する歩行者・二輪車・自転車・自動車
目的（何のために）	安全で安心して円滑に道路を通行するために
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	道路改良により、幅員が3.5m以上となる工事の割合を一定以上保ち、改良効果の向上を図る。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
道路新設改良事業	市道の新設、拡幅、改良及び舗装をし、道路を円滑に通行できるようにする。	◎
橋梁新設改良事業	新しく橋を架けたり、老朽化した橋を改良する。	◎
用地購入事務	市道の新設や拡幅するための用地を購入する。	◎

決算額

事業費等		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費	千円	198,580	175,638	305,643
	必要人員		3.24人	3.37人	3.95人
	人件費		21,284	24,855	28,671
	事業費計		219,864	200,493	334,314
財源	国県支出金	千円	29,052	18,878	13,650
	受益者負担				
	繰入金				
	市債		29,600	18,600	6,800
	その他（　）				
	一般財源		161,212	163,015	313,864
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標

結果指標名		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
幅員3.5m以上道路の延長		説明	改良工事後に幅員が3.5m以上になった道路の延長		
	結果指標量		711	665	1,206
	対前年比	%	－	93.5%	181.4%
	活動コスト	円	60,140,250	76,210,320	215,393,560
	単位当たりコスト		84,585	114,602	178,602

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
改良工事に占める幅員3.5m以上改良延長の割合	目標値（A）	65	65	65	
	実績値（B）	54	90	95	到達目標値
	達成率（B/A）	83.08%	138.46%	146.15%	毎年度

成果指標設定の考え方・式や説明

幅員3.5m以上改良延長／改良延長

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である

必要性

- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：A（A B C D E　高い　やや高い　普通　やや低い　低い）

効率性の評価

コスト

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい

手段

- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：B（A B C D E　高いやや高い　普通　やや低い　低い）

有効性の評価

目的達成度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：B（A B C D E　高いやや高い　普通　やや低い　低い）

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：今年度は3.5m以上の拡幅割合の達成率が95%となった。今後も用地協力が得られ、緊急性、事業効果の高いところから重点的に整備をしていく。

総合評価

今年度は新設及び拡幅改良の割合が高いことから成果指標の実績値は上がり、生活に密接した道路の整備はできた。

総合評価：A（A B C D E　高いやや高い　普通　やや低い　低い）

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：コスト縮減を考え、緊急性の高い用地協力の得られたところ、事業効果の大きいところから重点的に道路整備を行っていく。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成17年度～	根拠法令・例規等		道路法
総合計画	大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	問合先 担当課（室） まち整備課
	中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	職・氏名 土木係長　岡村　悟
	小項目	施策	33	道路環境の整備	電話 0869-64-1835
事務事業名			04	道路維持管理事業	このシート作成に要した時間 3.5 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	道路を通行する歩行者・自転車・二輪車・自動車
目的（何のために）	安全で安心して円滑に道路を通行するために。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	道路維持管理の不備による事故発生を未然に防ぐ。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
道路維持管理事業	既設の擁壁、道路側溝、舗装等が損傷して通行に支障が出た場合に修繕を行なう。	◎
橋梁維持管理事業	橋梁が損傷して通行に支障が出た場合に修繕を行なう。	○

決算額

事業費等		単位	平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度実績	
事業費	直接事業費	千円		53,360		71,989		84,536
	必要人員		1.17人	8,677	0.85人	6,598	0.88人	6,525
	人件費							
	事業費計			62,037		78,587		91,061
財源	国県支出金	千円		3,080		23,138		23,760
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			58,957		55,449		67,301
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標

結果指標名	単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績
維持修繕箇所（説明：維持修繕箇所数（工事請負費＋需用費））				
結果指標量		134	81	102
対前年比	%	－	60.4%	125.9%
活動コスト	円	62,037,000	78,767,000	91,061,000
単位当たりコスト	円	462,963	972,432	892,755

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
道路の維持管理の不備が原因となる事故発生件数	目標値（A）	0	0	0	
	実績値（B）	0	0	0	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	毎年

成果指標設定の考え方・式や説明

道路の維持管理の不備が原因となる事故発生件数

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：A（A 高いや　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：B（A 高いや　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

有効性の評価

目的達成度

- ■ 成果指標の設定は適切である
- ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- □ 法定事務・内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：B（A 高いや　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：限られた予算の中で、要望のあった修繕箇所を十分精査し、市道・市管理河川等ボランディア推進事業を行う団体と協議しながら、危険性・緊急性の高いものから実施していく。

総合評価

道路施設の老朽化が進んでいることから、事業量・事業費は増えている。このことから、修繕内容を十分精査し、市道・市管理河川等ボランディア推進事業を行う団体と協力しながら、安全・安心の観点から危険性、緊急性の高いものから実施していく必要がある。
また、大規模修繕においては、道路ストック事業を活用し、財源を確保し実施していく。

総合評価：A（A 高いや　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：限られた予算の中で、危険性・緊急性の高いところから実施していく必要があるが、修繕箇所の早期発見、早期対応により、費用の縮減及び事故の発生を未然に防ぐことに努める。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成8年度～			根拠法令・例規等	道路法
総合計画 大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	問合先 担当課（室）	まち整備課
総合計画 中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	職・氏名	管理係長　山本　あゆみ
総合計画 小項目	施　策	33	道路環境の整備	電　話	0869-64-1833
事務事業名		05	市道等管理事業	このシート作成に要した時間	0.5　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市道等利用者及び地域住民
目的（何のために）	市道等を整備し地域住民をはじめ市道等利用者の安全を図る。また、地域活性化を図ることを目的とする。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	市道を管理し有効に利用する。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
市道等管理業務	市道等の管理を行う	◎
道路占用許可業務	道路占用の許可を行う	◎
市道水路占用許可業務	道水路占用の許可を行う	◎
道路官民境界事務	市道などと民有地の境界の確認を行う	○
道路用途廃止業務	道路としての用途をを廃止する	◎
市道認定・市道編入業務	道路を市道への認定・編入を行う	◎
特殊車両通行許可業務	特殊車両の通行を許可を行う	○
道路台帳補正業務	道路改良など変更箇所の補正を行う	○
岡山アダプト推進事業	県事業の美化活動事業の補助を行う	○
岡山ロードサポート事業	県事業の道路維持事業の補助を行う	▲

決算額

事業費等		単位	平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度実績	
事業費	直接事業費	千円		4,359		8,506		9,808
事業費	必要人員人件費	千円	1.22人	9,725	1.10人	9,479	1.23人	8,755
事業費	事業費計	千円		14,084		17,985		18,563
財源	国県支出金	千円						
財源	受益者負担	千円						
財源	繰入金	千円						
財源	市債	千円						
財源	その他（　）	千円						
財源	一般財源	千円		14,084		17,985		18,563
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標

結果指標名	単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
占用許可申請取扱件数（説明：市道及び普通河川の占用許可申請処理を行った件数。）				
結果指標量		197	151	136
対前年比	%	－	76.6%	90.1%
活動コスト	円	14,084,000	17,985,000	18,563,000
単位当たりコスト	円	71,492	119,106	136,493

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
苦情発生件数	目標値（A）	1	0	0	0
	実績値（B）	1	1	1	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	#DIV/0!	#DIV/0!	0

成果指標設定の考え方・式や説明：許可等に対する苦情件数

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：B

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ■ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：C

有効性の評価

目的達成度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ■ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：B

進行年度（H29年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：占用料収入については、ガス事業者の導管敷設等により増加傾向にある。道路台帳については、引き続き電算化を進めるとともに、あわせて占用料についてシステムの導入を検討していく。

総合評価

占用許可等の業務については、苦情も少なく処理できている。今後も申請者に対し手続き・施工についての指導を徹底し、占用許可によって市民生活に支障をきたすことのないよう努める。
市道台帳については、認定・新設改良等を行った路線について遅滞なく整備できている。また道路維持作業員制度は相当の効果が発揮されたため、引き続き本制度を有効に活用し、パトロールの強化及び草刈作業等を定期的に行うことで安全な市道利用と道路環境整備に努められたい。

総合評価：B

Action

平成30年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：市道台帳をはじめ橋梁台帳、占用料台帳などの整備を行い、迅速で適正な業務の遂行に努めてたい。

備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成28年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成14年度～		根拠法令・例規等	
総合計画	大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	
	中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	
	小項目	施策	33	道路環境の整備	
事務事業名			06	協働による市道等管理事業	

問合先		
担当課（室）	まち整備課	
職・氏名	管理係長　山本　あゆみ	
電話	0869-64-1833	
このシート作成に要した時間	0.5　時間	

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市道等利用者
目的（何のために）	地域住民や企業等の団体が市の支援の下に、清掃美化活動等のボランティア活動を通じて市道をはじめとする公共施設への愛着心を深めるとともに公共施設利用のマナーの向上を図ることを目的とする。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	市道をはじめとした公共施設利用者の清掃意識やマナー向上を図る。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
道路・河川等ボランティア推進事業	道路・河川等の清掃美化活動の補助を行う	◎

事業費等

決算額		単位	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績
事業費	直接事業費	千円	1,891	1,920	2,066
	必要人員人件費		0.02人 188	0.03人 174	0.01人 106
	事業費計		2,079	2,094	2,172
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		2,079	2,094	2,172
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標	単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績
活動団体数	説明			
結果指標量		56	57	62
対前年比	%	－	101.8%	108.8%
活動コスト	円	2,079,000	2,094,000	2,173,000
単位当たりコスト		37,125	36,737	35,048

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度目標値
平均活動回数	目標値（A）	4	4	4	4
	実績値（B）	4.2	4	4	到達目標値
	達成率（B/A）	105.00%	100.00%	100.00%	4

成果指標設定の考え方・式や説明

活動回数（B）／活動目標回数（A）

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：B

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：C

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：C

進行年度（H29年度）の改革改善内容

	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
状況		○					

説明：ボランティア団体の活動成果により市の維持管理コストが軽減されているため引き続いて行う必要がある。

総合評価

前年度比が１団体増加し、清掃美化活動への貢献度が上がっている。今後も登録団体を増加させ、直接運営して行っている草刈経費等の縮減効果を上げる。

総合評価：B

Action

平成30年度の方向性・取組目標

	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
方向性		○					

取組目標：平成２９年度以降も引き続いて行う必要がある。